

《 ライフプランニングとは 》

ファイナンシャル・プランナー（FP）とか、ライフプランニングという言葉は余り馴染みが無いと思いますから、具体的に説明しましょう。

【質問1】 「ライフプランニング」とはどんなことですか？





- ・人は生まれてから亡くなるまで、たくさんのお金が必要となります。お金が必要になることは頭でわかっている、なかなか実感することはできませんね。
そこで、人生の中で**どんな時に・いくらお金が必要になるか**をアドバイスするためのツールが「ライフプランニング」であり、それを一覧表にしたものが「ライフプランニング表」です。
- ・作成した「ライフプランニング表」を見ることで、**どんな時に・いくらお金が必要になるのか**理解することができます。
また、この表から、今のままの生活を続けていくと、**どんな時に・いくらお金が足りなくなるのか**理解することができます。
- ・そこで、今から、お金が足りなくなる時期に合わせて、お金の準備をすればいざと言う時にも慌てなくて済みますし、経済的・精神的・肉体的にゆとりのある生活を送ることができます。有意義な人生を送ることができるでしょう。
- ・このお手伝いをするのが「ファイナンシャル・プランナー（FP）」です。





【質問2】 ライフプランを具体的にわかり易く教えてください？





- ・私達は、生まれた瞬間からお金とのつき合いが始まり、亡くなるまで続きます。
それを下の図を見ながら説明しましょう。
- ・出産すると、40～50万円程の出産費用がかかります。やがて生まれた子は成長するにつれ保育園から幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・大学院（最近は進学する方が増えました）へと進学し就職していきます。
すべて公立へ進学したとしても、約1,000万円程の学費がかかります。
これに、書籍代や部活費・学習塾・習い事等々を含め、大学院まで進学するとその費用は莫大なものになります。
さらに、マイホームを購入すると借入が増え、この返済負担も重くのしかかってきます。
やがて、お子さんが大学を卒業し社会人となったところで、やっとひと段落。
そこで、定年後のんびり暮らそうと思っても、年金の支給は65歳まで繰り延べられているし両親の介護をするシニアの方は老々介護が始まります。そして、時間の経過とともに諸々のことから解放され、やっと本当の老後生活に入った時にはかなりの年齢になっています。
この頃はもう、相続のこと、遺言のこと、老い支度の準備等々を始める年齢です。
- ・今まで書いてきたすべてが皆さんに当てはまる訳ではありませんが、誰もがほぼこれと似たような生活を送ることになります。
ここまで、お読みになったあなたはもうお分かりでしょうが、人生の節目節目でお金が必要になることがご理解いただけたと思います。

・必要なお金を今から準備する方法は、資産運用だったり、節税だったり、色々ありますがそれらのお手伝いをするのも「ファイナンシャル・プランナー（FP）」です。

下の図で、どんな時に・いくら・お金が必要になるかイメージして見てください。

<p>出生</p>  <p>出産費用 40～50万円 H22ゼクシィ調べ</p>	<p>保育・幼稚園入学</p>  <p>公立 66万円 私立 146万円 H24文科省のHPから</p>	<p>小学校入学</p>  <p>公立 183万円 私立 854万円 H24文科省のHPから</p>	<p>中学校入学</p>  <p>公立 135万円 私立 389万円 H24文科省のHPから</p>
---	---	---	---

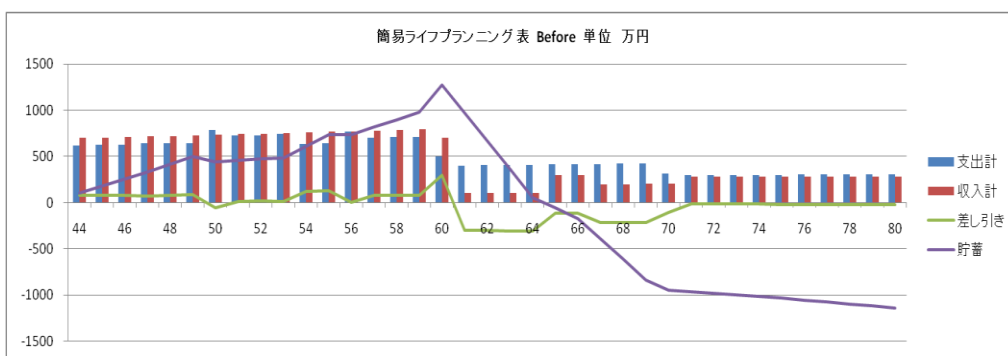
<p>マイホーム購入(首都圏)</p>  <p>建売住宅 3500万円 マンション 4200万円 H24生命保険文化センター</p>	<p>高校入学</p>  <p>公立 116万円 私立 289万円 H24文科省のHPから</p>	<p>大学入学</p>  <p>公立(自宅通) 510万円 私立文系(〃) 670万円 H22生命保険文化センター</p>	<p>卒業から就職</p>  <p>学費の負担無 やっと学費負担から解放 豊かな老後の始まり!!</p>
--	---	---	--

<p>結婚</p>  <p>平均費用 354万円 H22 ゼクシィ調べ</p>	<p>定年退職</p>  <p>大卒平均退職金 2千万円 高卒平均退職金 16百万円 H20年 厚労省資料</p>	<p>楽しい老後</p>  <p>国民年金 54,000円 厚生年金 149,000円 H23年 厚労省の資料</p>	<p>夫婦2人の悠々自適の生活</p>  <p>最低生活費 23万円必要 普通の生活費 35万円必要 H22生命保険文化センター</p>
--	--	--	---

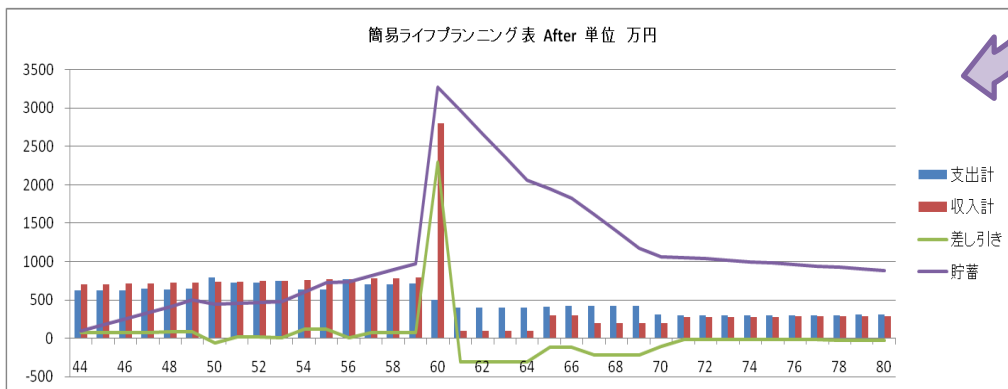
※ 夫婦2人の生活に入ると、自然と老後の話題になるようです。相続の事・遺言の事
終の棲家の事・終活ノートのこと・成年後見制度の事・老人ホームの事等々が多くなり
孫の事はあまり話題にのぼらなくなります。

【質問3】 ライフプランを具体的に教えてください。

- では、マイホームの購入相談に来たMさんの例で説明しましょう。
Mさん夫婦はお子さんと3人で暮らしていました。お子さんが小学校へ入学したのを機にマイホーム購入を考えていましたが住宅ローンを借りても返済できるかどうか、教育資金をどうしたらいいか、老後資金はどうなるのかと悩んだ末に来所されました。
- まず、現在の家計状況と、資産・負債状況をお聞きしました。
幸い、Mさん夫婦は、きちんと家計簿をつけていたので、さっそくライフプランニング表 (Before)を作成し、このままだと将来の生活がどのようなようになっていくのか説明しました。これを見ると60歳の定年後から貯蓄は減りだし65歳の時にはマイナスになります。さらに61歳から差引収支もマイナスになることがわかりました。
- これではまずいので、ライフプランを見直した後に作成したものが、ライフプランニング表 After です。



- ライフプランニング表 Afterを見ると、60歳の時に貯蓄が増えているのがわかります。実はMさん夫婦は退職金の存在を忘れていたので、確定拠出年金で退職金を増やすことを決断しました。これでMさん夫婦は安心してマイホームを購入する決心がついたのです。マイホームはフラット35を利用したので毎月返済額が増える心配もなく、現在の支払家賃よりローン返済額の方が少なくなったので、この差額をニーサで運用することにしました。

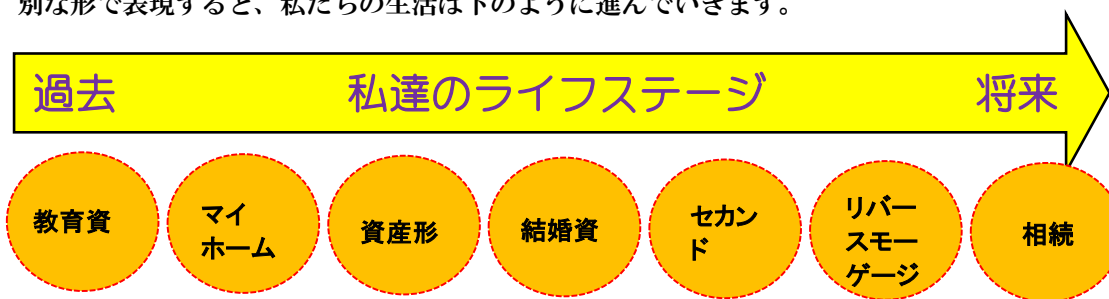


※ 2つのグラフ (Before、After) からわかること。

1. 今から将来に至る、家計の収支状況がわかります。
2. 将来、どんな時に、いくら、お金が必要になるかわかります。
3. 実情に即した家計の見直し策を作成することができます。

いかがでしょうか？ おわかりいただけただけでしょうか？

別な形で表現すると、私たちの生活は下のように入んでいきます。



私達の人生は、このようにライフステージの変化によって必要となるお金は変わります。そして、お子さんの成長に伴って必要となるお金は多くなります。

「けいえふびい」のファイナンシャル・プランナー（FP）が、

このような悩み・心配の解決策をご提案し、実行支援も行います。